

校長 だより

令和4年度 北新庄小学校
第12号 R5・1・18



新しい1年が始まりました。

今年もどうぞよろしく申し上げます。

先週10日(火)から、令和4年度第3学期が始まりました。今年もどうぞよろしく申し上げます。先週は11日(水)から13日(金)まで、北陸の冬としてはたいへん珍しい暖かな日差しがあり、気温も上がりました。暮れからお正月にかけても予想に反して雪がとても少なく、今年の3学期は穏やかな天候に恵まれた良いスタートとなりました。ところが、今週末には寒波が来るとの予報があります。寒に入っていますし2月中旬までは雪に関して安心はできませんが、このまま雪の少ない冬であればいいなと個人的には願っています。

さて、2学期の終業式の話の中で、児童全員を立たせて、自分が成長したと思うところや自分には良いところがあると思う人は座りましょうと、問いかけてみました。すると、1年生から4年生までは見事に全員が座りましたが、5年生は半分ぐらい、6年生はほとんどの児童が座りませんでした。高学年になると、いろいろ自分を分析して、自分には誇れるものがないなあとってしまうのかもしれませんが、しかし、あまりにも自己肯定感の低さに心配にもなりました。

そこで、児童全員に冬休み中の宿題として、自分の良いところを探すという課題を出しました。「冬休み中、規則正しく生活できた」「冬休みの宿題をすべて終えた」「挨拶ができた」「友達と楽しく遊ぶことができた」「家のお手伝いをした」「自分の部屋をきれいに掃除した」「兄弟けんかをしなかった」などなど、冬休み中に、いっぱい自分の良いところを探せるはずですよ。

そして、3学期始業式。同じように児童全員に問いかけてみました。今度は低学年でも、少し座るのをためらった子がいたので、真剣に自分に向き合っているのだなと感じました。もちろん、回りの子がみんな座ってしまったので、自分も座ろうと思った子も何人もいたことでしょう。さあ、5年生と6年生です。見てみますと、多くの児童が座った中で、それぞれ5,6人ほどが立っています。たぶんこの子たちは自分に完璧さを求めているのでしょう。良いところが100%ないと、自分には良いところがないのだと思っているのかもしれませんが、100%完璧な人間なんて存在しないので、一つでも、自分の良いところを見つけてほしいなと思います。自分の嫌いなところも、直したいところもいっぱいあるでしょう。けれども、いいところは必ずあります。そこで、その子たちに伝えました。「自分で見つけられなかったら、おうちの人に聞いてごらん。みんなの良いところをたくさん言ってくれると思うよ。『何よりも、あなたがこの世に生まれてきたこと、私たちの家族の一員になったこと、あなたが生きていること自体が素晴らしい』って、絶対言ってくれるから」と。

昨年11月に県の「生活や学習のアンケート」がありました。北新庄小学校の児童たちは、その中で特に「自分には良いところがある」「先生や家の人にはほめてくれる」「まわりの人たちに支えられて生きている」という項目が、残念ながら低い結果でした。今年度は残り50日ほどです。私たち教職員は改めて一人一人の児童の良いところを伝え、積極的に褒めていこうと思います。おうちの方もぜひご協力をお願いいたします。